

「がんと闘う子どもたち～小さなレモネード屋さん～」で

伝えなかったこと、伝えきれなかったこと

RSK 山陽放送 報道部 米澤秀敏

- きっかけは、榮島四郎くん(当時9)からの1通の手紙

「小児がんについて取材をしてください」



すぐに横浜へ！
岡山から通う日々の始まり…

- 小児がんの多くが治る病になったからこそ…最大のテーマは「晩期合併症」

◎「小児がん経験者はどんな人生を送っているのか？」 患児家族との会話から
◎遅れる研究、医師ですら知らない現実… ～取材に応じてくれた女性のケース

- 求められるケアはさまざま

たとえば「復学支援」

◎岡山で始まった研究「スクリエ」
◎NPOは長期療養の子どもたちの学習を支援

「きょうだいへの支援」

◎取材中に見せた兄の涙
「僕も寂しかった」

- 榮島四郎くんのその後

◎成長ホルモンを補う注射で
身長は7センチ伸びた！

◎新たな晩期合併症も…
疲れやすさとどう向き合うか



●四郎くんのご両親が伝えたいこと

- ◎セカンドオピニオンの重要性
- ◎専門医が足りない、育成して集約化へ
- ◎晩期合併症のフォローアップ ひとつの病院でトータルケアを
- ◎患者も知らない、医者も知らないという現実の解消を

●レモネードスタンドを入りに、小児がんに関心を持つ人が増えた！

- ◎活動を支援する団体のひとつ「レモネードスタンドジャパン」
(認定NPO法人キャンサーネットジャパン)への問い合わせは大幅増
- ◎2017年8月放送のJNNニュースはYahoo!ニュースのトップに⇒驚異の閲覧数
放送を見てレモネードスタンドを始めたという患児家族も
「こどものチカラ 2017 夏」
http://news.tbs.co.jp/newsi_sp/chikara/20170825.html



●ドキュメンタリーを作れる環境

- ◎全国でいち早く1971年10月に夕方のローカルニュースワイドをスタート
- ◎豊島産廃問題、ハンセン病問題など
地方から全国に問いかける数々のドキュメンタリーを制作
「報道のRSK」だからこそ許された継続取材

追伸：7月の西日本豪雨では、全国から岡山への温かいご支援、本当にありがとうございました。
このたびの受賞を励みに、引き続き精進して参ります。ご指導よろしくお願いたします。